データ収集ソフト WRS-VSS V12.00 取扱説明書

必ず「本製品をお使いの前に」をお読みください

2015年 1月 20日

watanabe

渡辺電機工業株式会社

IM - 0416 - 04

データ収集ソフトをお使いの前に

本製品に対応するWindows0Sは下記のとおりになりますので お使いのパソコンにてご確認お願いいたします。

Windows XP Professional(32 ビット)	0
Windows Vista Ultimate(32 ビット)SP1	0
Windows 7 Professional(32/64 ビット)	0
Windows Server 2003 Standard Edition(32ビット)	0
Windows Server 2008 R2 Standard(64 ビット) SP1	0

※上記以外の OS については対応しておりません。(2015 年 1 月 20 日現在) ※動作環境については第 2 章 動作条件を参照してください。

 A
⚠注意
本プログラムはAdministratorでログオンしてインストール
してください。
Windows Vista、Windows 7、Windows Server 2008 R2をお使いになる
場合、下記手順が必要です。
① UAC を無効にしてからインストールしてください。
② LAN通信を行うのでファイヤーウォールの設定を無効にするか、
例外許可の設定を行ってください。

Windows Vista、Windows 7、Windows Server 2008 R2をご使用の場合には

インストール前に「ユーザーアカウント制御(UAC)の設定を行います。

(1)Windows Vista の場合

「コントロールパネル」を開き「ユーザーアカウントと家族のための安全設定」 をクリックします。

	ネル 🕨		▼ ⁴ 7	م
 コントロールパネルホーム クラシック表示 		システムとメンテナンス Windows の開始 バックアップの作成	8	ユーザー アカウントと家族のための 安全設定 ● 任意のユーザーへの保護者による制 ● 限のセットアップ
	۲	セキュリティ 更新プログラムの確認 セキュリティ状態の確認 ♥Windows ファイアウォールによる プログラムの許可	<u></u>	プーザーアカウントの追加または剤 登除 デスクトップのカスタマイズ デスクトップの背景の変更 わかの本事
	٩	ネットワークとインターネット ネットワークの状態とタスクの表示 ファイルの共有の設定		 このタステ 画面の解像度の調整 時計、言語、および地域 キーボードまたは入力方法の変更
		ハードウェアとサウンド CD または他のメディアの自動再生 プリンタ マウス		表示言語の変更 コンピュータの簡単操作 設定の提案の表示 視覚ディスプレイの最速化
最近のタスク		プログラム プログラムのアンインストール スタートアップ プログラムの変更	*	その他のオプション
プログラムのアンインストー ル				

「ユーザーアカウント」をクリックします。



	ント	▼ ⁴ 9	検索		Q
タスク	ユーザー アカウントの変更				0
パスワード リセット ディスク の作成	パスワードの変更			Administrator	
ネットワーク パスワードの管 理	パスワードの削除 画像の変更		1	Administrator パスワード保護	
ファイル暗号化証明書の管理	HINY DCX.				
ユーザー プロファイルの詳細 プロパティの構成	 ⑦ 別のアカウントの管理 ⑦ ユーザーアカウント制御の有効化または 	無効化			
環境変数の変更					
開建項目					
😯 保護者による制限					

「ユーザーアカウント制御の有効化または無効化」をクリックします。

「ユーザーアカウント制御(UAC)を使ってコンピュータの保護に役立たせる」 のチェックを外して「OK」をクリックします。

	٩
ユーザー アカウント制御 (UAC) を有効にして、お使いのコンピュータをより安全にします。 ユーザー アカウント制御 (UAC) と、お使いのコンピュータに執可のかい 次軍が行われるのを除ぐのに沿た	
ユーラーアガラン「高岡(GAC)は、お使いのコンピュータに計引のないなどのイオオオののと同人のには立 ちます。お使いのコンピュータを保護するために、UAC を有効にしておくことをお勧めします。	
□ ユーザー アカウント制御 (UAC) を使ってコンピュータの保護に役立たせる	
OK キャンセル	

(2)Windows 7、Windows Server 2008 R2の場合

「コントロールパネル」を開き「システムとセキュリティ」をクリックします。



「ユーザーアカウント制御設定の変更」をクリックします。



「コンピューターに対する変更の通知を受け取るタイミングの選択」 を通知しないにスライドして「OK」をクリックします。

😚 ユーザー アカウント制御の設定			
コンピューターに対する ユーザー アカウント制 の防止に役立ちます。 ユーザー アカウント制	☆更の通知を受け取るタイミングの選択 抑を使用すると、問題を起こす可能性があるプログラムからのコンピューター¢ <u>前段定の詳細を表示</u>	D変更	•
常に通知する			
- [-	以下の場合でも通知しない:		
	 プログラムがソフトウェアをインストールしようと する場合、またはコンピューターに変更を加えよう とする場合 		ш
	 ユーザーが Windows 設定を変更する場合 		
	 推奨されません。ユーザー アカウント剥削でサポートされない、Windows 7 用に保証されていないプログラムを使用する場合にのみ選択してください。 		
通知しない			
	®ок [≠т>t	216	Ŧ

「はい」をクリックします。

🔞 ユーザー アカウント制御 🗾	٢
😯 次のプログラムにこのコンピューターへの変更を許可しますか?	
プログラム名: UserAccountControlSettings 確認済みの発行元: Microsoft Windows	
✓ 詳細を表示する(D) (はい(Y) しいいえ(N)	
<u>これらの通知を表示するタイミングを変更す</u>	ত্র

日 2	R
-----	---

第1	章	製品が届きましたら		1
第 2	章	動作概要		4
第 3	章	操作手順		6
第4	章	プログラムのインストール		7
	4 -	1. Microsoft .Net Framework のインストール		7
	4 -	2. プログラムのインストール		8
第 5	章	起動	1	2
	5 -	1. プログラムの起動	1	2
第6	章	操作	1	4
	6 —	1. 環境設定画面	1	4
		6-1-1. 環境設定タブ	1	5
		6-1-2. 日付指定収集タブ	1	8
	6 —	2. プログラム起動画面	2	3
		6-2-1. イベント表示	2	4
		6-2-2. イベントクリア	2	5
		6-2-3. バージョン確認	2	6
	6 —	3. 蓄積ファイル	2	7
		6-3-1. 日報・月報ソフトで帳票を表示しない場合	2	7
		6-3-2. 日報・月報ソフトで帳票を表示する場合	3	2
第 7	章	ログファイル	3	4
	7 —	1.イベントログファイル	3	4
		7-1-1.格納パスとファイル名	3	4
		7-1-2.データフォーマット	3	5
		7-1-3.ファイルサイズ	3	7
	7 —	2.表示イベントログファイル	3	8
		7-2-1.格納パスとファイル名	3	8
		7-2-2.データフォーマット	3	8
		7-2-3.ファイルサイズ	3	8
		7-2-4.イベント件数	3	8
	7 —	3.通信ログファイル	3	9
		7-3-1.格納パスとファイル名	3	9
		7-3-2.データフォーマット	4	0
		7-3-3.ログファイルの削除処理	4	0

第8	8章 データ収集動作について	 4	1
	8-1.データ収集設定について	 4	1
	8-2.データ収集方法について	 4	1
	8 – 3.設定の変更と削除について	 4	2
	8-4.データ欠損時の対応について	 4	3
第9	9章 エラーメッセージ	 4	5
	9-1.エラーメッセージ	 4	5

- ・Core 2 Duoは米国Intel社の登録商標です。
- ・Microsft 及び、Windows XP、Windows Vista、Windows 7、 Windows Server 2003、Windows Server 2008 R2、MSDE、SQL Server、 .NET Frameworkは米国Microsoft社の登録商標です。

※この説明書の内容は、改善のため予告なしに一部変更することがありますのでご了承ください。

第1章 製品が届きましたら

このたびはデータ収集ソフトをお買い求めいただき誠にありがとうございます。

【製品の確認】

次のものがお手元に揃っているかご確認下さい。

- なお、CD-ROMは大切に保管して下さい。
 - ・「データ収集ソフト」CD-ROM ...1枚
- CD-ROM内には下記の取扱説明書/手順書が存在します。
 - ・「データ収集ソフト取扱説明書」
 - ・「ルーター設定マニュアル」

※本プログラムを使用する場合は、下記のモジュールが必要となります。

- ジョイントモジュール(WVM)
- ・Web対応エネルギー監視モジュール(WTM)

※この説明書では以下の用語を使用しています。

・遠隔収集対応モジュール

ジョイントモジュール (WVM)、Web対応エネルギー監視モジュール (WTM)の総称です。

▲注意 ジョイントモジュール (WJM) について 本製品は、ジョイントモジュール (WVM)、またはWeb対応エネルギー 監視モジュールに対して (WTM)、インターネット経由で蓄積データの 収集を行います。 本製品では、ジョイントモジュール (WJM)のインターネット経由で 蓄積データの収集を行うことはできません。 【対応製品】

本製品は下記のリアルリンク製品に対応しています。

・WVM□シリーズ

- ・WJM□シリーズ
- ・WJFシリーズ
 - PA2, PE4, PA34, AI16, VT4, CT4
 - AE8, RI8, THI16, DO16, DI16

※WVM□の対応機能ユニットについては、WVM□取扱説明書を参照して下さい。

- ・WKMシリーズ(PAシリーズ)
 PAKFN、 PAKTN
- ・WKMシリーズ(PXシリーズ)
 PXNFN、PXNTN
- ・WRLシリーズ
 - AT1DS, AT2DS, AT4DS, AT8DS $AT 1 T \Box$, $AT 2 T \Box$, $AT1L\Box$, $AT2L\Box$ $A T 1 R \Box, \quad A T 2 R \Box, \quad A T 1 M P, \quad A T 2 M P$ AR2DS、 AR1DZ、 AR1DS、 AR4DS, AR8DS DM500、 DM501、 CM2TR, CM2RYDT16TR, DT4TD, DT8TD,DT4TR、 DT8TR、 D T 1 6 T D DR4TR, DR8TR, DR16TR、DR4RY、DR8RY、 DR16RY LG4TR, LG8TR, LG4RY, LG8RY

• W R B T シリーズ

AT1DS、	AT2DS、	AT4DS、	AT8DS	
AT1T□、	AT2T□、	AT1L□、	AT2L□	
АТ 1 К 🗆 🔪	АТ2 R□、	АТ1МР、	AT2MP	
AR1DZ、	AR1DS、	AR2DS、	AR4DS、	AR8DS
DT4TR、	DT8TR、	D T 1 6 T R 、	DT4TD、	D T 8 T D 、
D T 1 6 T D				
DR4TR、	DR8TR、	D R 1 6 T R 、	DR4RY、	DR8RY、
D R 1 6 R Y				
C N 2 T R 、	CN4TR、	C N 8 T R		
P I 2 T − A □]00、	P I 4 T − A □]00、	P I 8 T $-$ A \square 0 0

・WKDシリーズ
 PA12T、 PA13T、 PA33T、 PA34T、 AET
 PA12F、 PA13F、 PA33F、 PA34F

・WRMシリーズ PA13AT, PA13CT, PA13FT, PA13GT, PA13KT, PE13AT PA33AT, PA33CT, PA33FT, PA33GT, PA33KT, РЕЗЗАТ $A \in T - C$, $P \in T - P$ PA13AF, PA13CF, PA13FF, PE13AF PA33AF, PA33CF, PA33FF, PE33AF PI29F・WRMPシリーズ PA12T, PA13T, PA33T, PALPT PA12F, PA13F, PA33F, PALPF ・WRBAシリーズ PI2F $-A\Box 01$ $P I 4 F - A \Box 0 1, \qquad P I 8 F - A \Box 0 1$ DIO2TF, DIO4TF, DIO2RF, DIO4RF ・WRBCシリーズ DI16F, MAI8F, DIO8F, RI8F A I 8 F ・WRMCシリーズ PA12T, PA13T PA33T, PA34T PA12F, PA13F PA33F, PA34F ・WCDシリーズ PA12F, PA13F, PA33F, PA34F PA12T, PA13T, PA33T, PA34T ・WTMシリーズ PE6LN, PE6LA WRS - NCFT V9.30, WRS - PMS V9.30, WRS-REPO V8.20 以降のバージョンで対応しています。

第2章 動作条件

本プログラムは各拠点に設置された遠隔収集対応モジュールよりインターネット経由で 遠隔収集対応モジュールの蓄積データとイベントデータを収集します。

遠隔収集対応モジュールの蓄積インターバルと同期して、リアルタイムで収集要求を受信する 方法と、1日1回の収集要求を受信する方法の選択が可能です。

また日付指定範囲を設定しデータ収集する事も可能です。

本プログラムで収集した蓄積データを、日報・月報ソフト(WRS-REPO)で帳票 を作成することが可能です。

最大300拠点、300台のジョイントモジュール、最大300拠点、1134台の

Web対応エネルギー監視モジュールのデータを収集することが可能です。

ジョイントモジュールは、1拠点(ルーター)に最大2台設置可能です。

Web対応エネルギー監視モジュールは、1拠点(ルーター)に最大5台設置可能です。

【動作環境】

1. ハードウェア

• C P U	:インテル® Core™2 Duo プロセッサー 1.8GHz以上
・メモリ	: 2 G B y t e 以上推奨
・ハードディスク	: 8 0 G B y t e 以上の空き
\cdot C D – R O M	:必須
ディスプレイ	: X G A 1 0 2 4 × 7 6 8 以上
マウス	:必須
10BASE-T ホ°ート	: 必須

2. O S

Windows XP Professional(32ビット)	0
Windows Vista Ultimate(32 ビット)SP1	0
Windows 7 Professional(32/64 ビット)	0
Windows Server 2003 Standard Edition(32 ビット)	0
Windows Server 2008 R2 Standard(64 ビット) SP1	0

※上記以外の OS については対応しておりません。(2015年1月20日現在)

3. 推奨ルーター

• R T 5 8 i (Y A M A H A 製)

※ルーターの設定については、ルーター設定マニュアルをご参照ください。

【接続形態】



※図中AのWJMで利用できるオプション機能

収集サーバーPC の蓄積設定ツールでのデータ収集	利用不可
収集サーバーPC の蓄積設定ツールでのイベントログ収集	利用不可
CT 誤配線検出機能	利用可
Web サーバー機能 (収集サーバーPC での Web ブラウズ)	利用不可
収集サーバーPC への警報発報機能	利用不可
収集サーバーPC の蓄積設定ツールでのデマンド監視・制御機能	利用可
収集サーバーPC の蓄積設定ツールでの間欠制御機能	利用可
おんどとり SNVT 対応機能	利用不可

第3章 操作手順

データ収集ソフトを使用するための手順をご確認下さい。

【操作手順】



第4章 プログラムのインストール

データ収集ソフトをコンピュータにインストールします。

注意!

インストールする場合、インストールする前に必ず 『administrator』でログインして下さい。

4-1. Microsoft . Net Framework のインストール

お使いのパソコンに Microsoft. NET Framework1.1 がインストールされていない状態で プログラムのインストールを実行すると、下記のメッセージが表示されます。 インストールされている場合は「4-2 プログラムのインストール」に進んでください。

Windows インストーラ ローダー			
このセットアップは .NET Framework バージョン 1.1.4322 を必要とします。.NET Framework をインストールして、このセットアップをやり直してください。.NET Framework は Web から取得できます。今すぐ取得しますか?			
メッセージが表示されましたら、本プログラムより先に Microsoft.NET Framework1.1 をインストールする必要があります。 いいえをクリックし、【1】から【4】の手順を行ってください。			
【1】CDドライブに『データ収集ソフト』が入っているCD-ROM を挿入します。			
【2】『スタート』メニューから『コントロールパネル』の 『プログラムの追加と削除』より『プログラムの追加』を選択して、 『CDまたはフロッピー』をクリックします。			
【3】『次へ>』をクリックして、『参照(<u>R</u>)』より下記のファイルを指定して下さい。 下記のように入力して下さい。 ×:¥VSS¥dotnetfx.exe ↑ インストールCD挿入ドライブ名			
インストール プログラムの実行 表示されているインストール プログラムが正しい場合は、「院了」を知っかしてください。もう一度自動検索する場合は、「原3」を知っかしてください。 第(②) D¥VSS¥dotnetfx.exe ① YVSS¥dotnetfx.exe ① インストール CD 挿入 ドライブ名			
< 戻る(B) 完了 キャンセル			

【4】『完了』をクリックするとインストールCDの読み込みが開始されます。 インストールが終了しましたら、 「4-2 プログラムのインストール」へお進みください。

4-2. プログラムのインストール

【1】CDドライブに『データ収集ソフト』が入っているCD-ROM を挿入します。

- 【2】『スタート』メニューから『コントロールパネル』の 『プログラムの追加と削除』より『プログラムの追加』を選択して、 『CDまたはフロッピー』をクリックします。
- 【3】『次へ>』をクリックして、『参照(<u>R</u>)』より下記のファイルを指定して下さい。 下記のように入力して下さい。

×:¥VSS¥Setup.msi ▲_____インストールCD挿入ドライブ名

インストール プログラムの実行		X
	表示されているインストール プログラムが正しい場合 ックしてください。もう一度自動検索する場合は、 戻 ださい。自分でインストール プログラムを探す場合は してください。	なは、「完了」 をクリ (る) をクリックしてく (、 [参照] をクリック
	man, v_v. D:¥VSS¥Setup.msi	参照(<u>R</u>)
	インストールC	D挿入ドライブ名
	< 戻る(B) <u>完了</u>	キャンセル

【4】『完了』をクリックするとインストールCDの読み込みが開始され、 下記の画面を表示します。

ンセル

【5】下記の画面を表示後、『次へ(<u>N</u>)』をクリックします。 データ収集ソフトのセットアップを開始します。



【6】インストール先のフォルダを確認後、『すべてのユーザー(<u>E</u>)』を選択し 『次へ(<u>N</u>)』をクリックします。

Гаранан алан алан алан алан алан алан ала	
インストール フォルダの選択	
インストーラは次のフォルダへ データ収集ソフト をインストールします。	
このフォルダにインストールするにはしかへ」をクリックしてください。別の ルするには、アドレスを入力するかし参照」をクリックしてください。	フォルダにインストー
フォルダ(E):	
C#RialHost#DataCollection#	参照(<u>R</u>)
	ディスク領域(D)
データ収集ソフトを現在のユーザー用か、またはすべてのユーザー用にインス すべてのユーザー(E) このユーザーのみ(M) 	トールします。
キャンセル 〈戻る段	X~NV>

【7】インストール先の確認画面を表示します。

『次へ(<u>N</u>)』をクリックしインストールを開始します。

優 テ −タ収集ソフト	
インストールの確認	
データ収集ソフト をインストールする準備ができました。	
[次へ]をクリックしてインストールを開始してください。	
キャンセル	< 戻る(Q) 法へ(N)>

【8】データ収集ソフトのインストールを開始します。

╔╔╤╾タ収集ソフト	
データ収集ソフト をインストールしています	
データ収集ソフト をインストールしています。	
お待ちください…	
(〒+ウセル (戻る(B)	次へ(<u>い</u>) >

【9】下記の画面が表示されたら、『閉じる(<u>C</u>)』をクリックして下さい。 インストール完了です。Windowsを再起動して下さい。

◎データ収集ソフト インストールが完了しました。	
データ収集ソフト は正しくインストールされました。 終了するには、 [閉じる]をクリックしてください。	
Windows Update で、.NET Framework の重要な更新があるかどうかを確認してください。	
キャンセル 〈 戻る但 (閉じる)(2)	

第5章 起動

5-1. プログラムの起動

本プログラムを起動します。

注意!

本プログラムの安定運用のために収集が行われない時間帯でパソコン、または サーバーの定期的(1か月に1度程度)な再起動を推奨いたします。

注意!

本プログラムを起動する前に、モジュール登録ツール(WRS-NCFT)と 蓄積設定ツール(WRS-PMS)をインストールし、モジュールの登録と 蓄積設定を行ってから起動して下さい。

注意!

蓄積設定ツール(WRS-PMS)の蓄積基本設定で蓄積のインターバルを 1分にした状態で蓄積サンプリングと同期させた収集は行わないでください。

注意!

蓄積サンプリング時間が 30 分未満の設定で 50 拠点以上のデータを収集する システムの場合は弊社までご相談ください。

注意!

本プログラムで使用している遠隔収集対応モジュールの設定変更、削除を行う 場合、本プログラム起動中は、蓄積設定ツール(WRS-PMS)で変更、 削除を行う事は出来ません。

本プログラムを終了してから、蓄積設定ツール(WRS-PMS)を起動して ください。

蓄積設定の変更方法については、「8−3.設定の変更と削除について」 をご参照ください。

注意!

本プログラム起動中は、データベース管理ツールまたは、モジュール登録ツール (WRS-NCFT)を起動することは出来ません。

データベース管理ツールまたは、モジュール登録ツール(WRS-NCFT)を 使用する場合、本プログラムを終了後にデータベース管理ツールまたはモジュー ル登録ツール(WRS-NCFT)を起動してください。

モジュールの登録、削除については「8-3.設定の変更と削除について」 をご参照ください。 【1】『スタート』をクリックしスタートメニューを表示します。

【2】『すべてのプログラム(<u>P</u>)』を選択後、『リアルリンク ツール』を選択します。

【3】『データ収集ソフト』をクリックします。

		6	8
	····· ツアルリンケ ブール		и үүкаржај
Microsoft Office Exce	🛅 Lhaca	• 遠) モジュール登録ツール
Minute (A.) Court Studi	CONTEC ACX-PAC(W32)	•	↓ 検査システム
2003	💑 秀丸		データベース管理ツール
0	TWSNMP	▶ 簋	日報・月報
- 🔦 リモート デスクトップ接続	🛅 Roxio	• 😂	、WSP検査システム
	🛅 VS-Resizer Ver.6.0J	• 🔀	蕃積設定ツール
Pac Mon Pro	🛅 activePDF	•	улиятаеля
	m DMCS	• 5	データ収集ソフト
Adobe Reader 8	🌗 Microsoft Virtual PC		
	CONTEC ACX-PAC(W32)ExpressEdition	•	
Creator Home	🛅 Google デスクトップ	•	
	🛅 HTML Help Workshop	•	
すべてのプログラム(<u>P</u>) ♪	Microsoft .NET Framework SDK v1.1	•	
	🛅 Microsoft Visual Studio .NET 2003	•	
	🛅 PowerTools ActiveReports for .NET 3.0J SP1 Std トライアル版	•	
🦺 スタート 🛛 🗀 7 Windows I	🛅 スタートアップ°	•	

【4】以下の画面を表示します。

N T	ータ収集ソフト V1.00		
ファイノ	V(E) ヘルプ(H)		
No	日時	140h	▲
1	2009/06/29 18:27:01	起動	
2			
4			
5			
6			
7			
10			
11			
12			
13			
14			
16			
17			
			Þ

第6章 操作

6-1. 環境設定画面

プルダウンメニューから、『環境設定』を選択しますと以下の画面を表示します。

■1データ収集ソフト V1.00				
ファイル(E) ヘルプ(H)				
イ <u>ヘットクリア(C</u>)	1	イベント		
環境設定(E)	18:27:01	起動		
- 終了				
4				

\int	
■]環境設定	
環境設定 日付指定収集	
使用モード	▶ 日報・月報ソフトで帳票を表示する
受信ポートNo	16143
蓄積ファイル格納パス	C¥RIALHOST¥PMS¥CSVFILE 参照
イベントログファイル格納パス	C:¥RIALHOST¥DATACOLLECTIO 参照
イベントログサイズ	1 MByte
表示イベントログファイル格納パス	¥RIALHOST¥DATACOLLECTION 参照
表示イベントログサイズ	T MByte
通信ログファイル格納パス	¥RIALHOST¥DATACOLLECTION 参照
通信ログサイズ	1 MByte
サム値	© あり ● なし 設定
	画面終了

環境設定画面の環境設定タブを指定しますと以下の画面を表示します。

■Ţ環境設定	
環境設定	
使用モード	▶ 日報・月報ソフトで帳票を表示する
受信ボートNo	16143
蓄積ファイル格納パス	C:¥RIALHOST¥PMS¥CSVFILE 参照
イベントログファイル格納パス	C:¥RIALHOST¥DATACOLLECTIO 参照
イベントログサイズ	1 MByte
表示イベントログファイル格納パス	¥RIALHOST¥DATACOLLECTION 参照
表示イベントログサイズ	1 MByte
通信ログファイル格納パス	¥RIALHOST¥DATACOLLECTION 参照
通信ログサイズ	1 MByte
サム値	○あり ● なし
	画面終了

環境設定タブでは以下の設定を行ないます。

- ・使用モード
- ・受信ポートNo
- ・蓄積ファイル格納パス
- ・イベントログファイル格納パス
- ・イベントログサイズ
- ・表示イベントログファイル格納パス
- ・表示イベントログサイズ
- ・通信ログファイル格納パス
- ・通信ログサイズ
- ・サム値

【1】使用モードを設定します。

使用モードの設定は、CSVファイルの作成方法を変更できます。
CSVファイルについての詳細は「6-3 蓄積ファイル」を参照して下さい。
日報・月報ソフトを使用して帳票表示を行う場合、チェックを入れて下さい。
※日報・月報ソフトで日報の詳細設定を設定済みのPCではチェックを外すことは出来ません。
※日報・月報ソフトがインストールされていないとデフォルトはチェックなしです。

- 【2】受信ポートNoを設定します。 蓄積設定ツール(WRS-PMS)の蓄積設定時、遠隔収集対応モジュールに設定したWANポートNoと同じポートNoを設定して下さい。 デフォルト値:16143 設定範囲:0~65511
- 【3】 蓄積ファイル格納パスを設定します。

デフォルト値:C:\RialHost\PMS\CSVFILE

『参照』ボタンをクリックするとフォルダ参照画面を表示します。

フォルダの参照	? ×
■ ◎ デスクトップ	A
🗉 🗀 דר אלאבאלא 🔁 🗉	
🖂 📴 דר בטצב אין	
표 🚜 3.5 インチ FD (A:)	
🖂 🦇 ローカル ディスク (C:)	
🛅 DATA	
🕀 🧰 Documents and Settings	
🖃 🧰 imart	
🛨 🗀 storage	
📅 🦳 L NIA 1/7910	<u> </u>
新しいフォルダの作成(M) OK キャンセ	IL I

- 【4】イベントログファイル格納パスを設定します。
 デフォルト値:インストール先のパス
 『参照』ボタンをクリックすると【1】と同様にフォルダ参照画面を表示します。
- 【5】イベントログサイズを設定します。
 デフォルト値:1MByte
 設定範囲:1~5MByte
- 【6】表示イベントログファイル格納パスを設定します。 デフォルト値:インストール先のパス 『参照』ボタンをクリックすると【1】と同様にフォルダ参照画面を表示します。

- 【7】表示イベントログサイズを設定します。
 デフォルト値:1MByte
 設定範囲:1~5MByte
- 【8】 通信ログファイル格納パスを設定します。 デフォルト値:インストール先のパス 『参照』ボタンをクリックすると【1】と同様にフォルダ参照画面を表示します。
- 【9】 通信ログサイズを設定します。 デフォルト値:1MByte 設定範囲:1~5MByte
- 【10】サム値を使用して通信を行うかを設定します。 デフォルト値:なし 設定範囲:あり/なし ※サム値を使用する場合、遠隔収集対応モジュールにもサム値の設定をする 必要があります。
- 【11】『設定』ボタンをクリックしますと設定を更新します。 受信ポートNoを変更した場合、プログラムの再起動メッセージを表示 しますのでプログラムを再起動して下さい。 プログラムの再起動を行なわないと受信ポートの設定は更新されません。

※『画面終了』ボタンでは、設定を更新しません。

6-1-2. 日付指定収集タブ

環境設定画面の環境設定タブを指定しますと以下の画面を認	表示します。
-----------------------------	--------

-	境設定				<u>_ </u>
環境	設定 日付指約	宅収集			
No	モジュール名	コメント		収集開始	旧時 ▲
1	C0000001	計測器1			
2	C0000002	計測器2			
3	C0000003	計測器3			
4	C0000004	計測器4			
5	C0000005	計測器5			
6	C0000006	計測器6			
7	C0000007	計測器7			
8	C0000008	計測器8			
9	C0000009	計測器9			
10	C0000010	計測器10			
11	C0000011	計測器11			
12	C0000012	計測器12			
13	C0000013	計測器13			
14	C0000014	計測器14			
15	C0000015	計測器15			
16	C0000016	計測器16			
					- 1
				1	腚
			 r		
				画面約	*了
			L	·	

モジュール登録ツールで遠隔収集対応モジュールを登録し、

蓄積設定ツールで蓄積設定を行なった遠隔収集対応モジュールがリストに表示されます。 モジュール名、コメントはモジュール登録した時に設定したモジュール名、コメントを 表示します。

画面を最大化しますと以下の画面になります。

	コメント	収集開始日時	収集終了日時	収集要求送信時間ディレイ時間	日付指定収集要求送信時間1	日付指定収集要求送信時間2
1 C0000001	計測器1			0		
2 C0000002	計測器2			0		
3 C0000003	計測器3			0		
4 C0000004	計測器4			0		
5 C0000005	計測器5			0		
6 C0000006	計測器6			0		
7 C0000007	計測器7			0		
8 C0000008	計測器8			0		
9 C0000009	計測器9			0		
10 C0000010	計測器10			0		
11 C0000011	計測器11			0		
12 C0000012	計測器12			0		
13 C0000013	計測器13			0		
14 C0000014	計測器14			0		
15 C0000015	計測器15			0		
16 C0000016	計測器16			0		
7 C0000017	計測器17			0		
8 C0000018	計測器18			0		
19 C0000019	計測器19			0		
20 C0000020	計測器20			0		
21 C0000021	計測器21			0		
22 C0000022	計測器22			0		
23 C0000023	計測器23			0		
4 C0000024	計測器24			0		
5 C0000025	計測器25			0		
6 C0000026	計測器26			ů		
7 C0000027	計測器27			ů		
8 C0000028	計測器28			0		
9 C0000029	計測2829			0		
0 000000000	計測提30			0		
31 C0000031	計測提31			0		
32 00000032	計測提32			0		
33 C0000033	計測(2233			0		
34 C0000034	計測提34			0		
94 0000004	=1:8422.0C					

日付指定収集タブでは以下の設定を行ないます。

- ·収集開始日時
- ・収集終了日時
- · 収集要求送信時間
- ・ディレイ時間
- ·日付指定収集要求送信時間1~6
- ・ハートビート間隔
- ※本プログラムでは、収集要求時間の設定で下記の2パターンで収集を行う事が出来ます。 収集方法についての詳細は、『8-2 データ収集方法について』を参照して下さい。

※日付指定収集要求送信時間、収集開始日時、収集終了日時の設定は、データ欠損が 発生した場合、使用します。

データが欠損した場合の手順についての詳細は、

『8-4 データ欠損時の対応について』を参照して下さい。

【1】 収集要求送信時間を設定します。

収集要求送信時間で時刻を設定すると、設定した時刻に1日1回蓄積データの収集 を行います。

収集要求送信時間で時刻を設定しない場合、遠隔収集対応モジュールの

蓄積インターバルに同期して蓄積データの収集を行います。

遠隔収集対応モジュールの蓄積データをデータ収集ソフトが収集する時間を設定 します。

デフォルト値:蓄積設定ツールで設定した値

設定範囲 : 00:00~23:59

日付指定収集要求送信時間1~6との時間の重複は 出来ません。

設定するモジュールの収集要求送信時間の欄をダブルクリックします。 以下の様にカーソルが表示され値の変更が可能になります。

l	収集要求送信時間
1	03:00

- 【2】ディレイ時間を設定します。 遠隔収集対応モジュールの蓄積データを収集する時間のディレイ時間(秒)の 設定をします。
 - 例)収集要求送信時間 03:00、日付指定収集要求送信時間 05:10
 ディレイ時間 20 の設定の時
 遠隔収集対応モジュールは収集要求を 03:00:20 に収集を開始し、
 日付指定収集要求を 05:10:20 に収集を開始します。

デフォルト値:蓄積設定ツールで設定した値 設定範囲:0~1800

設定するモジュールのディレイ時間の欄をダブルクリックします。 以下の様にカーソルが表示され値の変更が可能になります。

ディレイ時間 10

【3】日付指定収集要求送信時間1~6を設定します。 遠隔収集対応モジュール内の蓄積データに対し、 日付指定した蓄積データを収集する時間を設定します。 ブランクに設定しますと日付指定した収集を行いません。 デフォルト値:ブランク 設定範囲:00:00~23:59またはブランク 収集要求送信時間と日付指定収集要求時間との時間の重複は

出来ません。

設定するモジュールの日付指定収集要求送信時間1~6の欄を

ダブルクリックします。

以下の様にカーソルが表示され値の変更が可能になります。

日付指定収集要求送信時間1
_:

※日付指定収集要求送信時間1~6を設定した場合、遠隔収集対応モジュールは 蓄積インターバルに同期した収集は行われなくなる為、データ欠損時に 設定を行ってください。 データが欠損した場合の手順についての詳細は、

『8-3 データ欠損時の対応について』を参照して下さい。

【4】収集開始日時を設定します。

遠隔収集対応モジュールがデータ収集ソフトで日付指定収集要求時間に収集する 蓄積データの日付(開始日時)を設定します。 ブランクに設定しますと日付指定収集を行いません。 また日付指定収集が成功すると収集開始日時、収集終了日時をクリア (ブランクの状態)します。

デフォルト値:ブランク

設定範囲:2000/01/01 00~現在日時 またはブランク 収集終了日時なしの設定は出来ません。 収集終了日時より遅い日時の設定は出来ません。 日付指定収集要求時間1~6の設定を1つ以上設定しないと 設定出来ません。

設定するモジュールの収集開始日時の欄をダブルクリックします。 以下の様にカーソルが表示され値の変更が可能になります。

収集開始日時

【5】収集終了日時を設定します。

遠隔収集対応モジュールがデータ収集ソフトで日付指定収集要求時間に収集する 蓄積データの日付(終了日時)を設定します。 ブランクに設定しますと日付指定収集を行いません。 また日付指定収集が成功すると収集開始日時、収集終了日時をクリア (ブランクの状態)します。

デフォルト値:ブランク

設定範囲:2000/01/01 00~現在日時 またはブランク 収集開始日時なしの設定は出来ません。 収集開始日時より早い日時の設定は出来ません。 日付指定収集要求時間1~6の設定を1つ以上設定しないと 設定出来ません。

設定するモジュールの収集終了日時の欄をダブルクリックします。 以下の様にカーソルが表示され値の変更が可能になります。

収集終了日時	

【6】ハートビートの送信間隔を設定します。

ハートビートとは、遠隔収集対応モジュールが使用しているルーター側 IPアドレスをデータ収集ソフトに通知する機能です。

遠隔収集対応モジュールがデータ収集ソフトにハートビートを送信する間隔を 設定します。

ハートビート間隔 🔺	
0	
1	
5	
10	
30	
. 60	
120	
240	

デフォルト:蓄積設定ツールで蓄積設定時に指定した値
設定範囲:0/1/5/30/60/120/240(分)
※0を指定した場合、ハートビートは送信されません。

【7】『設定』ボタンをクリックしますと設定を更新します。

設定の更新はDBに行ないますので、更新した時点では遠隔収集対応モジュール 内の設定は更新されていません。

遠隔収集対応モジュールに設定するタイミングは以下の場合です。

・遠隔収集対応モジュールから蓄積データを収集した時

※ハートビート受信時には、遠隔収集対応モジュール内の設定は更新されません。

6-2. プログラム起動画面

プログラム起動後DBに接続成功した場合に以下の画面を表示します。

<u>-</u> データ	タ収集ソフト ¥1.00		
ファイル(E) ヘルプ(H)		
No E]時	140JF	_
1	2006/03/02 17:41:51	起動	
2	2006/03/02 17:44:00	C0100001 収集終了(17:43:44~)イベント3件	
3	2006/03/02 17:44:19	C0100002 収集終了(17:44:03~)イベント3件	
4	2006/03/02 17:44:40	C0100003 収集終了(17:44:24~)イベント3件	
5		Ν.	
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
		^ イベントを表示しま	す。

6-2-1. イベント表示

プログラム起動画面に日時、イベント内容を表示します。

No	日時	
1	2006/03/02 09:53:26	起動
2	2006/03/02 11:52:23	C0100001 収集終了(11:51:20~)イベント3件
3	2006/03/02 11:52:45	C0100003 収集異常 (11:52:45~) イベント0件 エラーコード(RO)
4	2006/03/02 11:53:20	C0100003 収集異常(11:53:19~)イベント0件 エラーコード(UL)
5	2006/03/02 11:54:45	C0100003 収集異常 (11:53:44~) イベント2件 エラーコード(EU)
6	2006/03/02 11:55:47	C0100003 収集異常 (11:55:15~) イベント3件 エラーコード(AR)
7	2006/03/02 11:56:34	C0100003 収集異常 (11:56:02~) イベント3件 エラーコード(R1)
8	2006/03/02 11:57:31	C0100003 収集異常(11:56:58~)イベント3件 エラーコード(R2)
9	2006/03/02 11:58:26	C0100003 収集異常 (11:57:54~) イベント3件 エラーコード(R3)
10	2006/03/02 12:53:34	C0100003 収集異常 (12:53:34~) イベント0件 エラーコード(Port : 16144)
11	2006/03/02 12:55:44	C0100003 収集異常(12:55:44~)イベント0件 エラーコード(DB)
12	2006/03/02 12:58:26	データベース接続異常
13		

イベント表示は最大1000件まで表示します。

1000件を超える場合は"No"の2~1000をクリアし新たに

"No"の2からイベントを表示します。

イベントの内容が"収集異常"、"データベース接続異常"、"収集中ファイル作成失敗"、 "収集中ファイルオープン失敗"、"ファイルリカバリー失敗"の場合 "No"の色が 赤になります。

"収集異常"のイベント表示内容
 <u>C0100003</u> 収集異常(<u>11:52:45~</u>) <u>イベント3件 エラーコード(RO)</u>
 ↓
 ↓
 ↓
 ↓
 ↓
 ↓
 × 2 エラーコード
 × 1 イベント件数

※1 イベント件数は遠隔収集対応モジュールから収集したイベントデータより LON通信エラー、LAN通信エラー、起動/停止、コンパクトフラッシュ状態異常、 ハード障害のイベントが発生した件数を表示します。 イベントの詳細は『7-1 イベントログファイル』を参照して下さい。 ※2 エラーコードの詳細は以下の内容になります。

エラーコード	内容	考えられる要因
RO	蓄積チャンネル数問い合わせ失敗。	・通信状態が不安定
	蓄積チャンネル数不整合。	・蓄積設定ツールで蓄積チャンネル数
		設定を変更した後にデータベース管
		理ツールで設定のエクスポートを行
		っていない。
DB	DB接続失敗。	 D B 更新失敗。
		・DBと接続失敗。
UL	蓄積データ収集失敗。	・通信状態が不安定。
EU	イベントデータ収集失敗。	・通信状態が不安定。
AR	時計校正失敗。	・通信状態が不安定。
R1	収集要求送信時間設定失敗。	 通信状態が不安定。
R2	日付指定収集要求送信時間設定失	・通信状態が不安定。
	敗。	
R3	送信ディレイ時間設定失敗。	・通信状態が不安定。
Port:ホ°−トNo	LAN ポート OPEN 失敗。	・他のプログラム等でLANのポート
		が使用されている。

上記エラーコードの他にイベントには下記が表示される事があります

イベント表示	内容
起動	プログラムを起動した時に表示されます。
収集中ファイル作成失敗	蓄積データ収集中にファイル書き込み動作が
	失敗しました。
	次回蓄積データ収集時、またはプログラム再起
	動時に収集済みの蓄積データが書き込まれま
	す。
収集中ファイルオープン失敗	蓄積データ収集前に、ファイルオープン動作に
	失敗しました。
	次回蓄積データ収集時、収集されなかった蓄積
	データも収集されます。
ファイルリカバリー失敗	プログラム起動時に表示されます。
	蓄積データ収集時に、蓄積データを蓄積ファイ
	ルに書き込む事に失敗し、リカバリー処理時に
	も失敗した場合に表示されます。
データベース接続異常	データベースの接続に失敗した場合に表示され
	ます。

6-2-2. イベントクリア

プルダウンメニューから、『イベントクリア』を選択しますと確認画面を表示後 イベント表示をクリアします。("No"の1の"起動"イベントは残ります。)

データ収集ソフト V1.00		
ファイル(E) ヘルプ(H)		
ፈላንኑ/JJア(<u>C</u>)		~
環境設定(E)	09:53:26	đ
終了		
3	-	_
<u> </u>		-

プルダウンメニューから『ヘルプ』から、『バージョン情報』を選択しますと バージョン情報画面を表示します。

バージョン情報		
	データ収集ソフト バージョン: 1.00 Copyright(C) 2009 渡辺電機工業株式会社	画面終了

確認後、「画面終了」ボタンをクリックして下さい

6-3. 蓄積ファイル

遠隔収集対応モジュールが蓄積したデータを収集してファイルに保存します。 蓄積ファイルは、「6-1-1 環境設定タブ」内の「使用モード」で設定します。 使用モードが

「日報・月報ソフトで帳票を表示する」にチェックをしない場合、

蓄積ファイルは遠隔収集対応モジュール1台につき1ファイルを作成します。

「日報・月報ソフトで帳票を表示する」にチェックをした場合、

蓄積ファイルは蓄積設定ツール(WRS-PMS)で作成された蓄積ファイルを使用します。

6-3-1. 日報・月報ソフトで帳票を表示しない場合

6-3-1-1. 格納パスとファイル名

蓄積ファイルを保存する為にWORKフォルダとDBフォルダを使用します。 以下のパスを使用します。

・WORKフォルダ

¥②¥WORK¥モジュール名称 000.DAT

- ・ D B フォルダ
 ① ¥ ② ¥ D B ¥モジュール名称 000. D A T
- ①『6-1-1 環境設定タブ』で指定した蓄積ファイル格納パス

②モジュール名称の先頭から3文字

※モジュール名称が3文字以内の場合、②はモジュール名称になります

例) 蓄積ファイル格納パス "C:¥imart¥storage" モジュール名称 "C0100001"

格納パス

- ・WORKフォルダ C:¥imart¥storage¥C01¥WORK¥C0100001000.DAT
- ・DBフォルダ C:¥imart¥storage¥C01¥DB¥C0100001000.DAT

6-3-1-2. 蓄積ファイル保存動作

蓄積ファイルは以下の動作でファイルを保存します。 ①WORKフォルダにファイルを作成しデータ収集したデータを保存します。 ②データ収集が成功した時にDBフォルダに移動します。

○基本動作



以下の場合はDBフォルダに移動しません。 ○データ収集失敗



ファイル移動しません

○DBフォルダにすでにファイルが存在している。



ファイル移動しません

○日付指定収集の時



6-3-1-3. データフォーマット

蓄積ファイルをメモ帳で開くと以下の様に保存されています。

▶ C0000001000.DAT - メモ帳
ファイル(上) 編集(上) 書式(22) 表示(22) ヘルブ(出)
2009-06-04 14:00:00,00C0000001,W000,,0,,,74.87
2009-06-04 14:00:00,00C0000001,W002,,0,,,75.01
2009-06-04 14:00:00,00C0000001,000406607.26
2009-06-04 14:00:00,00C0000001,W005,,0,,,6574.26
2009-06-04 14:00:00,00C0000001,W006,,0,,,856.26 2009-06-04 14:00:00.00C0000001.W00700 00
2009-06-04 14:00:00,00C0000001,W008,,0,,,100.00
2009-06-04 14:00:00,0000000001,0009,00,,50.00 2009-06-04 14:00:00.00000001.000401 43
2009-06-04 14:00:00,00C0000001,W00B,,0,,,0.00
2009-06-04 14:00:00,00C0000001,W00C,,0,,,76.32 2009-06-04 14:00:00.00C0000001.W00D079 52
2009-06-04 14:00:00,00C0000001,W00E,,0,,,78.26
2009-06-04 14:00:00.00C0000001,W003,.0,.,6609.24
$\frac{1}{4} \qquad \qquad$
$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
①蓄積データ年月日時分
② 端 χ / / / / / / / / / / / / / / / / / / /
※モジュール名称が8桁以内の場合 モジュール名称の後ろに半角スペースを含め
歳末10を10桁にします
③ 苯積チャンネルNo (WOXX)
② 印例 値・ ・アナログデータ・・・小粉占9 佐(小粉占9 佐日を四捨玉み)
・電力重アータ ・・・差分アータ小数点2桁(小数点3桁日を四括五人)
※カワントアーダ、電力量アーダは遠隔収集対応センュールに積鼻値で蓄積されます。
本モードでは収集終了後に、前回収集時の計測値をファイルに保存し、次回収集時に
ファイルを参照し差分処理を行っています。
収集時に通信エラー等によりデータが存在しない場合蓄積データは" "となります。
計測値が復帰した場合、最後に計測出来た値からの差分値が蓄積ファイルに保存します。
日付指定収集の場合、指定時刻の計測値が存在しない為、指定時刻初回のカウントデータ、
電力量データは蓄積ファイルに保存されません。
詳細は 7-3-4 データパターンを参照して下さい。
差分計算用のファイルは下記に保存されます。
通常収集用 : 蓄積設定ツールインストールパス¥SS_CSV¥モジュール名称.txt
日付指定収集用:蓄積設定ツールインストールパス¥SS_OTCSV¥モジュール名称.txt

6 - 3 - 1 - 4. データパターン

- ・計測回路の入力がない場合、通信に失敗した場合蓄積データ""になります。
 2009-06-04 13:30:00,00C0000001,W01A,,0,,,
- ・遠隔収集対応モジュールが蓄積中に蓄積設定を追加した場合、蓄積設定を行なった時間より以前の蓄積データはすべて""になります。
 2009-06-04 13:30:00,00C0000001,W01A,,0,,,
- ・差分データで、蓄積を開始した初回のデータは蓄積データが""になります。 2009-06-04 13:30:00,00C0000001,W01A,,0,,,
- ・差分データで、蓄積設定ツールでスケーリング値を変更した場合、変更後に蓄積した 初回のデータは蓄積データが""になります。
 2009-06-04 13:30:00,00C0000001,W01A,,0,,,

6-3-2. 日報・月報ソフトで帳票を表示する場合

6-3-2-1. 格納パスとファイル名

蓄積ファイルは蓄積設定ツールで作成される蓄積ファイルを使用します。 パスは下記になります。

<u>C:\#RialHost\#PMS</u>\#CSVFILE*ファイル名.DAT

▶ 蓄積設定ツールインストールパス

ファイル名は下記の名称で作成されます。

ファイル名:

 ZZZZZZZ \sim YYYYYYY \sim XXXXXXX \sim U \sim WW \sim V. DAT

 → 蓄積をする
 →モジュール名称
 →チャンネル名

 モジュール名
 → 蓄積No

6-3-2-2. 蓄積ファイル保存動作

蓄積ファイルはデータ収集後、追加モードでファイルに書き込まれます。

蓄積ファイルをメモ帳で開くと以下の様に保存されています。

WVMMMMMNTWVMMMMMNTカウンタ入力2TA-1T98T3.dat - メモ帳		×
ファイル(E) 編集(E) 書式(Q) 表示(V) ヘルプ(H)		
2009/07/24,19:21,13353441.000		^
2009/07/24,19:21,13353441.000		
2009/07/24,19:22,13377981.000		
2009/07/24,19:21,13353441.000		
2009/07/24,19:22,13377981.000		
2009/07/24,19:23,13402521.000		
2009/07/24,19:21,13353441.000		
2009/07/24,19:22,13377981.000		
2009/07/24,19:23,13402521.000		
2009/07/24,19:24,13427061.000		
2009/07/24,19:21,13353441.000		
2009/07/24,19:22,1337/981.000		
2009/07/24, 19:23, 13402521,000		
2009/07/24, 19:24, 1342/061.000		
2009/07/24,19:25,13451192.000		
		~
S	>	

2009/07/24,19:23,13402521.000

 ①蓄積データ年月日時分

②蓄積データ

※カウントデータ、電力量データは遠隔収集対応モジュールに積算値で蓄積されます。 本モードでは、蓄積ファイルに書き込まれるカウントデータ、電力量データは積算値で 書き込まれます。

収集時に通信エラー等によりデータが存在しない場合蓄積データは"一"となります。

6 - 3 - 2 - 4. データパターン

・計測回路の入力がない場合、通信に失敗した場合蓄積データ"一"になります。 2009/07/24,19:22,-

・遠隔収集対応モジュールが蓄積中に蓄積設定を追加した場合、蓄積設定を行なった時間より以前の蓄積データはすべて"一"になります。
 2009/07/24,19:27,-

6-3-2-5. 日報・月報ソフト帳票表示について

本モードでは、蓄積設定ツール(WRS-PMS)と同様のファイル/フォーマットで 蓄積ファイルが作成される為、蓄積ファイルを使用して、日報・月報ソフト(WRS-VSS) で帳票設定/日報表示/月報表示を行うことが出来ます。

▲注意 日報・月報ソフト使用時の蓄積ファイル内データについて 本モードで作成された蓄積ファイルは、日報・月報ソフトで帳票表示時に参照し、 蓄積ファイル内の蓄積データをデータベースにインポートされます。 インポート時に蓄積ファイル内の蓄積データはクリアされます。 日報設定をされていない蓄積ファイルは、蓄積データを収集される毎にファイルサイズ が大きくなる為、日報設定を行わない要素については蓄積設定を行わないで下さい。

▲注意 蓄積データ収集と帳票表示について 蓄積データ収集が行われている時に帳票表示を行うと、帳票表示中に 「蓄積ファイルは他のプログラムで使用されています」というメッセージが表示されます。 また、帳票表示中に蓄積データ収集が行われると、蓄積データ収集が失敗し、 データ収集ソフトのメイン画面に「収集中ファイルオープン失敗」、 「収集中ファイル作成失敗」が表示されます。 帳票表示は、蓄積データ収集が行われない時間に行ってください。 また、日報・月報ソフトの自動印刷保存オプションを使用する場合、蓄積サンプリング 時間と同期して収集を行うと、必ず蓄積データ収集と自動印刷保存が同時に動作する為、 収集動作、または帳票作成に失敗します。 自動印刷保存オプションを使用する場合は、収集要求送信時間を設定し、1日1回の蓄積 データ収集を使用して下さい。

日報・月報ソフト(WRS-REPO)の帳票設定方法については、 日報・月報ソフト取扱説明書を参照して下さい。

第7章 ログファイル

7-1.イベントログファイル

遠隔収集対応モジュールが蓄積したイベントデータを収集してファイルに保存します。 イベントログファイルは遠隔収集対応モジュール1台に1ファイル作成します。

7-1-1.格納パスとファイル名

以下のパスを使用します。

① ¥ E V E N T ¥ ② ¥ モジュール名称. L O G

①『5-1-1 環境設定タブ』で指定したイベントログファイル格納パス
 ②モジュール名称の先頭から3文字

※モジュール名称が3文字以内の場合、②はモジュール名称になります

例) イベントログファイル格納パス "C:¥RialHost¥DataCollection" モジュール名称 "C0100001"

C:\ RialHost \DataCollection\Event\CO1\CO100001.LOG

7-1-2.データフォーマット

ジョイントモジュールのイベントログファイルをメモ帳で開くと以下の様に保存されています。

🔄 PT001101.LOG - 头毛帳	
ファイル(E) 編集(E) 書式(Q) ヘルプ(H)	
2006/03/03,00:05:00,08 起動/停止(本体起動,本体電源,MAIN)	A
2006/03/03,00:10:00,12 パラメータ設定_変更_削除(設定変更,ユニット設定(ユニットA),UNIT)	
2006/03/03,00:15:00,06 LAN通信エラー(収集要求送信,収集エラー(収集要求),DIGI)	
2006/03/03,00:20:00,09 時計校正(設定変更,時刻校正(校正前時刻2006/03/03,00:20),DIGI)	
2006/03/03,00:25:00,02	
2006/03/03,00:30:00,08 起動/停止(本体停止,MMI操作,UYC)	

^{2006/03/03,00:20:00,09} 時計校正(設定変更,時刻校正(校正前時刻2006/03/03,00:20),DIGI)

I		I	I	I
年月日時分秒	イベント種別	イベント名称	詳細情報	プログラム名称
イベント種別N o				

ジョイントモジュールのイベント種別No、イベント種別、イベント名称、詳細情報は 以下の内容になります。

イベント	イベント種別	イベント名称	詳細情報
種別No			
02	蓄積	差分収集	瞬時蓄積データ
		時間収集	瞬時蓄積データ
		収集	瞬時蓄積データ
		蓄積同期収集要求送信	収集終了
		収集要求送信	
		収集要求再送信	
		日付指定収集要求送信	
05	LON 通信エラー	異常発生	S/N 情報
06	LAN 通信エラー	異常発生	DIGI 通信
		収集要求送信	収集エラー(エラー発生フェーズ)
		収集要求再送信] *
		日付指定収集要求送信	
08	起動/停止	本体停止	MMI 操作
		本体起動	本体電源
09	時計校正	設定変更	時計校正(校正前時刻)
10	コンパクトフラッシ	異常発生	CF 書き込み
	ュ状態		CF 読み込み
11	ハード障害	異常発生	RAM
			フラッシュ
			FRAM 書き込み
			メイン P1 通信
12	パラメータ設定_変	設定変更	蓄積データ削除
	更_削除		蓄積設定(蓄積 No)
			蓄積設定(基本)
		設定追加	蓄積設定(蓄積 No)
		設定削除	蓄積設定(全蓄積)
			蓄積設定(蓄積 No)

Web対応エネルギー監視モジュールのイベント種別No,イベント種別、イベント名称、 詳細情報は以下の内容になります。

Web対応エネルギー監視モジュールのイベントログファイルをメモ帳で開くと以下の様に 保存されています。

▶ PT001102.txt - メモ帳		×
ファイル(E) 編集(E) 書式(Q) 表示(V) ヘルプ(H)		
2010/01/02 02:02:20 12 LAN Link(Down) 2010/01/03 03:03:30 12 LAN Link(Up 100/D) 2010/01/04 04:04:40 08 Power OFF 2010/01/05 05:05:50 08 Ready		<
		\sim
	>	

2010/01/02 02:02:20 12 LAN Link(Down)

↑		1		
年月日時分秒	イベント名称	詳細情報		
イベント種別N o				

Web対応エネルギー監視モジュールのイベント種別No、イベント名称、詳細情報は 以下の内容になります。

イベント	イベント名称	詳細情報
種別No		
01	警報,発生	警報 LL 発生(No. 監視 N o, 警報ポイント名称)
		警報 L0 発生 (No. 監視 N o , 警報ポイント名称)
		警報 HI 発生 (No. 監視 N o , 警報ポイント名称)
		警報 HH 発生 (No. 監視 N o , 警報ポイント名称)
		警報発生(No.監視No,警報ポイント名称)
	警報,復帰	警報 LL 復帰(No. 監視 N o, 警報ポイント名称)
		警報 L0 復帰 (No. 監視 N o , 警報ポイント名称)
		警報 HI 復帰(No.監視No,警報ポイント名称)
		警報 HH 復帰 (No. 監視 N o , 警報ポイント名称)
		警報復帰(No.監視No,警報ポイント名称)
	【メール異常】"警報イベント内容"	なし
02	蓄積	収集要求送信,収集終了
		収集要求再送信,収集終了
		日付指定収集要求送信,収集終了
		蓄積同期収集要求送信,収集終了
06	LAN 通信エラー	収集要求送信,収集エラー(通信エラー内容)
		日付指定収集要求送信,収集エラー(通信エラー内容)
		蓄積同期収集要求送信,収集エラー(通信エラー内容)
08	PowerOFF	なし
	Ready	なし
	IP Address Initial	なし
	LAN SW	ON
		OFF
	Telnet ini Initial	なし
	SET SW Initial	なし

イベント	イベント名称	詳細情報				
種別No						
08	Reset Start	Telnet				
		Power				
		Error				
	Watch Dog Reset Start	なし				
09	RTC Set	From yyyy/mm/dd hh:MM:ss				
11	AD Time Out Error	AI				
		RI				
	AD Data Error	AI: уууууу				
		RI:уууууу				
	Program SUM Check Error	なし				
	RAM Check Error	なし				
	FRAM SUM Check Error	なし				
	FRAM Check Error	なし				
	FRAM Write Error	XXXX				
	FRAM Read Error	XXXX				
	RTC Error	СОМ				
		BAT				
	TMS Error	SUM				
		PRG				
		WDT				
		NUL				
		CMD				
		LEN				
	File System Error	Init				
		Write				
		Read				
		Cmp				
		Open				
		Close				
12	LAN Link	Down				
		Up 100/D				
		Up 100/H				
		Up 10/D				
		Up 10/H				

※ エラー発生フェーズは以下の内容になります。

エラー発生フェーズ	内容
収集要求	収集要求を送信後に通信エラー発生
チャンネル数確認	チャンネル数応答送信後に通信エラー発生
蓄積収集	蓄積データを送信後に通信エラー発生
イベント収集	イベントデータを送信後に通信エラー発生
時計校正設定	時計校正設定応答後に通信エラー発生
収集要求送信時間設定	収集要求送信時間設定応答後に通信エラー発生
日付指定収集要求時間設定	日付指定収集要求時間設定応答後に通信エラー発生

7-1-3.ファイルサイズ

『5-1-1 環境設定タブ』で指定したイベントログファイルサイズで指定した サイズを超えた場合、古いデータから削除を行いファイルサイズの調整をします。

7-2.表示イベントログファイル

プログラム起動画面で表示したイベント情報をファイルに保存します。 表示イベントログファイルは1ファイル作成します。

7-2-1.格納パスとファイル名

以下のパスを使用します。

1¥EVENT_DISP. LOG

①『5-1-1 環境設定タブ』で指定した表示イベントログファイル格納パス

例) 蓄積ファイル格納パス "C:¥ RialHost ¥DataCollection"

C:\ RialHost \DataCollection\EVENT_DISP.LOG

7-2-2.データフォーマット

表示イベントログファイルをメモ帳で開くと以下の様に保存されています。

🜌 EVENT_DISP.LOG - 头毛帳	- U ×
ファイル(E) 編集(E) 書式(Q) ヘルプ(H)	
2006/03/04,18:08:02,起動	
2006/03/04,18:53:26,PT050020 収集終了(18:53:24~)イベント3件	
2006/03/04,18:53:28,PT050013 収集異常(18:52:46~)イベントO件 エラーコード(EU)	
2006/03/04,18:53:31,PT050021 収集終了(18:53:29~)イベント3件	
2006/03/04,18:53:36,PT050022 収集終了(18:53:34~)イベント3件	
2006/03/04,18:53:50,PT050011 収集終了(18:53:47~)イベント3件	
2006/03/04,18:53:56,PT050012 収集終了(18:53:54~)イベント3件	
2006/03/04,18:54:01,P1050013 収集終了(18:53:59~)イベント3件	
2006/03/04,18:54:07,P10500014 収集終了(18:54:04~)イベント3件	
2006/03/04,18:54:12,P1050014 収集終了(18:54:10~)イベント3件	
2006/03/04,18:54:17,P1050015 収集終了(18:54:15~)イベント3件	
2006/03/04,18:54:25,PT050017 収集異常(18:53:03~)イベントが牛 エラーヨート(UL)	
2006/03/04,18:54:37,P1050019 収集異常(18:53:11~)イベント3件 エラーコート(R3)	_

2006/03/04,18:53:26,PT050020 収集終了(18:53:24~)イベント3件

↑
年月日時分秒

T イベント内容

7-2-3.ファイルサイズ

5-1-1 環境設定タブで指定したイベントログファイルサイズで指定した サイズを超えた場合、古いデータから削除を行いファイルサイズの調整をします。

7-2-4.イベント件数

イベント件数は、イベント種別No:05/06/08/10/11の件数です。

7-3.通信ログファイル

本プログラムがデータ収集で送受信した通信データを保存します。 通信ログファイルは遠隔収集対応モジュール1台に1ファイル作成します。 但し本プログラムが認識してない遠隔収集対応モジュールからの収集要求送信や、 コマンドエラーのデータは別に1ファイル作成します。

7-3-1.格納パスとファイル名

・遠隔収集対応モジュール1台に1ファイルの場合
 以下のパスを使用します。
 ①¥COM¥②¥モジュール名称_年-月-日.LOG

- ①『5-1-1 環境設定タブ』で指定したイベントログファイル格納パス
 ②モジュール名称の先頭から3文字
 ※モジュール名称が3文字以内の場合、②はモジュール名称になります
- 例)イベントログファイル格納パス "C:¥ RialHost ¥DataCollection"
 モジュール名称 "C0100001"
 ログ作成年月日 "2006/03/02"

C:\ RialHost \DataCollection\Com\Col\Col00001_2006-03-02.LOG

- ・本プログラムが認識していない遠隔収集対応モジュールからの収集要求送信又は コマンドエラーのデータを保存するファイルの場合
 ①¥COM¥EVENT_COM.LOG
 - 例) イベントログファイル格納パス "C:¥ RialHost ¥DataCollection" C:¥ RialHost ¥DataCollection¥COm¥EVENT_COMLOG.LOG

7-3-2.データフォーマット

通信ログファイルをメモ帳で開くと以下の様に保存されています。

🜌 PT001111_2006-03-04.LOG - 以モ帳	
ファイル(E) 編集(E) 書式(Q) ヘルプ(H)	
RX,2006/03/04,18:44:18:835,192.168.1.139:16142→16143,UL,-1,3232236132	
TX,2006/03/04,18:44:18:945,16143→192.168.1.139:16142,R0,16144	
RX,2006/03/04,18:44:19:005,192.168.1.139:16142→16144,R0,199/1,0000,128 ,4A08,0,2006	3,01,18
TX,2006/03/04,18:44:19:146,16144→192.168.1.139:16142,UL,0,9999/99/99,99,1	
RX,2006/03/04,18:44:19:196,192.168.1.139:16142→16144,UL,1,0712290005,1.00 ,1.0 ,1.	.00 ,1.00
TX,2006/03/04,18:44:19:346,16144→192.168.1.139:16142,UL,1	
RX,2006/03/04,18:44:19:406,192.168.1.139:16142→16144,UL,2,0712290010,1.00 ,1.00 ,1.	.00 ,1.00
TX,2006/03/04,18:44:19:416,16144→192.168.1.139:16142,UL,2	
RX,2006/03/04,18:44:19:466,192.168.1.139:16142→16144,UL,3,0712290015,1.00 ,1.00 ,1.	.00 ,1.00
TX,2006/03/04,18:44:19:476,16144→192.168.1.139:16142,UL,3	
RX,2006/03/04,18:44:19:516,192.168.1.139:16142→16144,UL,4,0712290020,1.00 ,1.0 ,1.	.00 ,1.00

受信データ

RX,2006/03/04,18:44:18:835,192.168.1.139:16142→16143,UL,-1,3232236132 ↑
年月日時分秒ミリ秒 送信元 I Pアドレス 受信ポートNo ポートNo 受信データ

送信データ

TX,2006/03/04,18:44:18:945,16143→192.168.1.139:16142,R0,16144 ↑
年月日時分秒ミリ秒 送信ポートNo 送信先IPアドレス ポートNo 送信データ

7-3-3.ログファイルの削除処理

本プログラムが起動している P C の日付が変わった時に現在の日付から 8 日以前の の日付のファイル名のファイルを削除します。

第8章 データ収集動作について

本プログラムが遠隔収集対応モジュールからの収集要求を受信後に、データ収集を行います。 データ収集の設定は、蓄積設定ツール(WRS-PMS)で初期設定を行います。 本プログラムでは設定内容の変更を行うことが出来ます。

8-1.データ収集設定について

データ収集の設定は蓄積設定ツール(WRS-PMS)を使用して、下記の内容を設定します。

設定方法についての詳細は、蓄積設定ツール取扱説明書を参照して下さい

- WANIPアドレス
- ・WANポートNo
- ・送信ディレイ時間
- ・ハートビート
- · 収集要求送信設定
- ·日付指定収集要求送信時間

8-2. データ収集方法について

本プログラムでは、収集要求送信時間の設定によって、2パターンの収集方法を使用 できます。

蓄積したデータをすぐに参照したい場合は、収集要求送信時間は設定しないで下さい。
①収集要求送信時間を設定した場合・・・1日1回入力した時間に収集を行います。

②収集要求送信時間を設定しない場合・・遠隔収集対応モジュールが蓄積終了後に収集を 行います。

> (蓄積設定ツールで設定した蓄積インターバル 時間と同期して収集します)

※①、②の収集動作を同時に使用することは出来ません。

▲注意 データ収集のリトライ通信について

本プログラムでは、遠隔収集対応モジュールから収集要求通信を受信することで収集を開始 します。 遠隔収集対応モジュールの収集要求通信は『8-2 データ収集方法について』で記述 されている2パターンで送信されます。 それぞれの収集要求通信時に、通信エラーが発生した場合、40秒後に再度リトライ通信 を行います。 リトライ通信に失敗すると、遠隔収集対応モジュール内のイベントログに 「LAN通信エラー」が発生します。 収集要求送信時間を設定し、1日1回のデータ収集を行う場合は、上記リトライ通信の他に 1時間30分後に再度リトライ通信を行います。

8-3. 設定の変更と削除について

モジュールの追加登録または削除、蓄積設定の変更または削除を行う場合は、 下記の手順で操作してください。

【1】本プログラムを終了します。

- 【2】モジュール登録ツール(WRS-NCFT)または 蓄積設定ツール(WRS-PMS)を起動します。
- 【3】モジュールの削除または蓄積設定の変更を行います。
- 【4】起動したモジュール登録ツール(WRS-NCFT)または 蓄積設定ツール(WRS-PMS)を終了します。
- 【5】本プログラムを起動します。データ収集が再開されます。

⚠注意

本プログラム終了中は、遠隔収集対応モジュールからの収集要求通信を受信することが できません。 本プログラム終了中に遠隔収集対応モジュールが収集要求通信を送信した場合、 遠隔収集対応モジュールは約80秒間、モジュール登録ツール(WRS-NCFT) および蓄積設定ツール(WRS-PMS)との通信を保留にします。 保留中にモジュールの削除または蓄積設定の変更を行った場合、画面上には 「通信中です」と表示されます。「通信中です」の表示が消えると通信が完了します。 表示が消えるまでお待ち下さい。

8-4.データ欠損時の対応について

遠隔収集対応モジュールは、最低過去4日以上のデータを保有しています。 日付指定収集要求送信時間、収集開始時間、収集終了時間を設定することで、 欠損したデータを日時単位で収集を行うことが出来ます

- ①収集要求送信時間を設定した場合、またはWeb対応エネルギー監視モジュールを 使用している場合、下記の操作を行ってください。
 - (1) 6-1-2 日付指定収集タブの設定を参照し、
 - ・欠損データの収集を行う時間→日付指定収集要求時間1~6
 - ・欠損したデータの開始日時 →収集開始時間
 - ・欠損したデータの最終日時 →収集終了時間

を入力し、「設定」ボタンを押すことで、指定した時間に欠損データ収集を 行います。

②ジョイントモジュールを使用して収集要求送信時間を設定しない場合、

下記の操作を行ってください。

また、収集要求送信時間を設定しない場合、日付指定収集後(欠損データ収集後)に、

自動的に蓄積インターバルと同期した収集は行われません。

必ず(2)以降の操作を実施して下さい。

- (1) 6-1-2 日付指定収集タブの設定を参照し、
 - ・欠損データの収集を行う時間→日付指定収集要求時間1~6
 - ・欠損したデータの開始日時 →収集開始時間
 - ・欠損したデータの最終日時 →収集終了時間

を入力し、「設定」ボタンを押すことで、指定した時間に欠損データ収集を 行います。

- (2) 指定した時間に欠損データの収集がしたら、本プログラムを終了後
 - 6-1-2 日付指定収集タブの設定を参照し、
 - ・欠損データの収集を行う時間→日付指定収集要求時間1~6

の設定時間をブランクにし、「設定」ボタンを押すことで、日付指定収集要求の 設定が削除されます。

モジュールへの設定更新は、日付指定収集要求時間1~6で設定していた時刻に 更新されます。

※欠損データを収集後、即時に収集を開始したい場合、

蓄積設定ツール(WRS-PMS)を使用して、日付指定収集要求送信時間1~6 の削除を行ってください。

(3) 本プログラムを起動し、収集が開始される事を確認して下さい。

⚠注意

使用モードの「日報・月報ソフトで帳票を表示する」にチェックを入れていない場合、 日付指定収集を行うと初回時刻のカウントデータと電力量データは蓄積ファイルに 保存されません。 カウントデータまたは電力データデータの欠損の修復を行う場合は、欠損したデータ の開始日時の1時間前を収集開始時間に指定して下さい。 ○ジョイントモジュールの蓄積チャンネル数と蓄積日数について

単位:日(時間指定は除く)

蓄積時間 チャンネー数	1分	5分	10 分	30 分	60 分	120 分	240 分	時間指定
1 (204000)	141	708	1416	4250	8500	17000	34000	—
2 (144000)	97	486	972	2916	5833	11666	23333	—
4 (96000)	66	333	666	2000	4000	8000	16000	—
8 (48000)	33	166	333	1000	2000	4000	8000	—
1 6 (28800)	20	100	200	600	1200	2400	4800	_
3 2 (14400)	10	50	100	300	600	1200	2400	_
6 4 (7200)	5	25	50	150	300	600	1200	19年
1 2 8 (5760)	4	20	40	120	240	480	960	15年
2 5 6 (5760)		20	40	120	240	480	960	15年
5 1 2 (2500)		8	17	52	104	208	416	6年

()内は、蓄積1チャンネルあたりの最大データ件数

OWeb対応エネルギー監視モジュールの蓄積チャンネル数と蓄積日数について

単位:日(時間指定は除く)

蓄積時間 チャンネル数	1分	5分	10 分	30 分	60分	時間指定
1 (204000)	141	708	1416	4250	8500	—
2 (144000)	97	486	972	2916	5833	—
4 (96000)	66	333	666	2000	4000	_
8 (48000)	33	166	333	1000	2000	_
1 6 (28800)	20	100	200	600	1200	_
3 2 (14400)	10	50	100	300	600	—
6 4 (7200)	5	25	50	150	300	19年
1 2 8 (5760)	4	20	40	120	240	15年
2 5 6 (5760)	4	20	40	120	240	15年
5 1 2 (2500)	1	8	17	52	104	6年

()内は、蓄積1チャンネルあたりの最大データ件数

第9章 エラーメッセージ

9-1.エラーメッセージ

ーアルファベットー

○DBに接続できません

→DB接続に失敗しました。

- U D P ポートオープンエラー
 - →プログラム起動時に受信ポートNoのオープンに失敗しました。 他のプログラム等で使用されているか確認してください。

-ア行-

○イベントログ格納パスが見つかりません

→環境設定タブで設定したイベントログ格納パスが見つかりません。 存在するパスを設定して下さい。

○イベントログサイズの指定が違います

→環境設定タブで設定したイベントログサイズが範囲外です。 1~5の値で設定して下さい。

○イベント表示をクリアします

→プログラム起動画面のイベント表示をクリアします
 ※『OK』 :イベント表示をクリアします。
 『キャンセル』:クリアをキャンセルします。

ーサ行ー

- ○収集開始日時、収集終了日時を指定する場合は日付指定収集要求送信時間を 指定して下さい
 - →日付指定収集タブで収集開始日時、収集終了日時が入力されていますが、 日付指定収集要求送信時間が入力されていません。
 日付指定収集要求送信時間1~6のいずれかを設定して下さい。

○収集開始日時と収集終了日時を両方指定して下さい

→日付指定収集タブで収集開始日時、収集終了日時のいずれかが入力されていません。 収集開始日時と収集終了日時を両方設定して下さい。

○収集開始日時の指定が違います

→日付指定収集タブで収集開始日時の入力された日付が正しくありません。 正しい日時を設定して下さい。

○収集開始日時は収集終了日時より以前の日時を指定して下さい

→日付指定収集タブで収集開始日時が収集終了日時より後の日付になっています。

○収集終了日時の指定が違います

→日付指定収集タブで収集終了日時の入力された日付が正しくありません。 正しい日時を設定して下さい。

○収集要求送信時間又は日付指定収集要求送信時間の時間が重複しています

→日付指定収集タブで収集要求送信時間又は日付指定収集要求送信時間の時間が 重複しています。重複しないように設定して下さい。

○収集要求送信時間の指定が違います

→日付指定収集タブで収集要求送信時間の時間が正しくありません。 正しい時間を設定して下さい。

○ 収集要求送信時間+送信ディレイ時間が24時を超えないように設定して下さい

→日付指定収集タブで収集要求送信時間の時間が正しくありません。 正しい時間を設定して下さい

○受信ポートNoが変更されました。プログラムを再起動して下さい

→環境設定タブで受信ポートNoが変更されました。プログラムを再起動するまで 受信ポートNoの設定を更新しません。

○受信ポートNoの指定が違います

→環境設定タブで受信ポートNo設定した値が範囲外です。 0~65535の範囲で設定して下さい。

○使用中のリアルリンクツールを終了してからプログラムを起動して下さい

→データベース管理ツールまたはモジュール登録ツールと同時に 本プログラムは起動できません。

ータ行ー

○ 蓄積設定ツールをインストールしてからプログラムを起動して下さい

→蓄積設定ツールで遠隔収集対応モジュールに蓄積設定を行ってから、 本プログラムを起動してください。

○蓄積ファイル格納パスが見つかりません

→環境設定タブで設定した蓄積ファイル格納パスが見つかりません。 存在するパスを設定して下さい。

○通信ログファイル格納パスが見つかりません

→環境設定タブで設定した通信ログファイル格納パスが見つかりません。 存在するパスを設定して下さい。

○通信ログサイズの指定が違います"

→環境設定タブで設定した通信ログサイズが範囲外です。 1~5の値で設定して下さい。

○ディレイ時間の指定が違います

→日付指定収集タブで設定したディレイ時間が範囲外です。 0~59の値で設定して下さい。 -ハ行-

○ハートビート間隔の指定が違います

- →ハートビート間隔の設定が正しくありません。
 - 0, 1, 5, 10, 30, 60, 120, 240の中から設定して下さい。

○ハートビート間隔は「0/1/5/10/30/60/120/240分」から指定していください

- →ハートビート間隔の設定が正しくありません。
 - 0, 1, 5, 10, 30, 60, 120, 240の中から設定して下さい。

○日付指定収集要求送信時間の指定が違います

→日付指定収集タブで日付指定収集要求送信時間の時間が正しくありません。 正しい時間を設定して下さい。

○日付指定収集要求送信時間+送信ディレイ時間が24時を超えないように設定して下さい

→日付指定収集タブで日付指定収集要求送信時間の時間が正しくありません。 正しい時間を設定して下さい。

○表示イベントログ格納パスが見つかりません

→環境設定タブで設定した表示イベントログ格納パスが見つかりません。 存在するパスを設定して下さい。

○表示イベントログサイズの指定が違います

→環境設定タブで設定した表示イベントログサイズが範囲外です。 1~5の値で設定して下さい。

-ラ行-

○″ログイン名を入力して下さい

→DB接続タブでログイン名を入力してません。 ログイン名を入力して下さい。

渡辺電機工業株式会社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前6丁目16番地19号
 電話 03(3400)6141(代表) FAX 03(3409)3156
 ホーム^ヘージ http://www.watanabe-electric.co.jp
 (JR原宿駅/東京メトロ千代田線明治神宮前駅下車)